

交流・文化施設等整備検討委員会 「第6回委員会」

会 議 次 第

日時：平成20年10月28日（火）午後3時～5時（予定）

場所：上田商工会議所 4階議員会議室

1. 開 会

2. 報告事項

(1) 専門委員会の設置と会議概要について

資料1、2、事前配布資料

3. 議事

(1) 交流・文化施設等の検討について

事前配布資料（検討課題について）

① ホール機能と美術館について

資料3、4

イ ホールの規模、機能等

ロ 副ホール

ハ 美術館の機能等

② 交流機能について

イ 役割、機能

ロ 施設の内容

③ 公園・広場・駐車場等について

④ 管理・運営について

イ 管理運営費の状況

ロ 自主事業

⑤ その他

(2) 今後の進め方について

資料5

(3) その他

4. 連絡事項

5. 閉 会

●配布資料

- ・資料1 専門委員会名簿
- ・資料2 第1回専門委員会で出された意見
- ・資料3 先進市文化施設との比較検討書
- ・資料4 全国公立美術館状況調
- ・資料5 検討委員会の進め方について（案）

※事前配布資料

- ・第1回専門委員会 資料4 検討課題について
- ・第1回専門委員会 参考資料 上田市の基本統計データ
- ・第1回専門委員会 参考資料2-③ 市内文化施設一覧

平成20年10月28日
交流・文化施設等整備検討委員会
第6回委員会 資料1

交流・文化施設整備等検討委員会

専門委員会名簿

(敬称略)

氏名	役職名	備考
日端康雄	慶應義塾大学名誉教授	交流・文化施設等整備検討委員長 専門委員会委員長
土本俊和	信州大学工学部教授	交流・文化施設等整備検討委員
美山良夫	慶應義塾大学文学部教授 慶應義塾大学アート・センター副所長	交流・文化施設等整備検討委員 専門委員会副委員長
伊藤羊子	長野県信濃美術館主任学芸員	交流・文化施設等整備検討委員
佐田繁理	㈱さだ企画代表取締役社長	
津村 卓	(財)地域創造芸術環境部プロデューサー 北九州芸術劇場チーフプロデューサー、館長	
関田正幸	(社)日本クラシック音楽事業協会副会長 (財)ジェスク音楽文化振興会専務理事	上田市出身
太田 圭	筑波大学 人間総合科学研究科芸術学系 准教授	上田市出身
滝澤正幸	長野県立歴史館主査学芸員	上田市出身

計 9 名

第1回専門委員会が出された意見

1 基本コンセプト（基本理念、目標）について

- ・基本コンセプトや基本的な考え方は案の通りでよい

2 施設整備の概要について

（ホール）

- ・一流のオペラやバレエの公演が可能な劇場型の多目的ホールとすべき。関東から長野までの沿線にそうしたホールがないことから、上田に大きな集客力が生まれる。席数はオーケストラピットの使用を踏まえても興行的に採算が合う席数、例えば1,800席程度がよい。
- ・興行でホールを使用する立場から見ると、人口規模20万人弱の都市で2,000席のホールは対応できない。オーケストラピットの件を踏まえて、1,800席程度がよい。
- ・1,800～2,000席の規模で様々な公演を考えると、ポップス系でも2,000人を集めるアーティストは少ない。
- ・「交流」の意味でも、関東からお客さんが呼べるような拠点とすれば、観光面で効果が期待できる。そのためには、外観などよりもホールの舞台機構や音響設備にお金をかけるべき。

（美術）

- ・上田の文化財を保管する収蔵庫が必要。また山本鼎や石井鶴三の記念館を設置したいとの要望もある。そんな中どのようにホールと美術館との線引き、折り合いをつけていか、非常に不安。
- ・上田の美術関係者の非常に熱い思いの中で、また、美術館の設置について陳情等も出されている中で、美術館機能の位置付け、つまり「美術館」なのか「美術展示ホール」に過ぎないのか、この部分を決定すべき。
- ・ホールと美術館で場所の取り合いを避けるためにも、共用スペースを多く持つことが重要。例えば、5年、10年に一度大規模な展覧会を開催し、国宝や重要文化財も展示するような場合に、普段音楽用に使用しているスペースをその時期だけは美術品の展示に使用できればよいが。

（交流）

- ・「交流」の意味を明確にしなければならない。文化間の交流なのか、異世代間の交流なのか、または地域間の交流なのか、意味を明確にすることで、施設に必要な規模や機能が浮かび上がる。よくボランティア活用というが、これをもって「交流」というわけにはいかない。
- ・単純に会議室などを用意するのか、それとも芸術活動という目的に限定するのか、そして限定した時に、どのような市民活動ができるのか、これらも重要な論点。

（その他）

- ・予算の内訳について事務局から提案されており、この案は多少の調整はあっても大きくは変わらないため、これを基に検討する。
- ・ホールと美術館は別々の建物とせず1つにし、エントランスを共用する。
- ・検証の必要はあるが、ホールや美術館などの各施設を一つの建物とする方が、建設費、運営費、スペース共用の面でも、合理的かつ効率的。

3 管理運営方法の方向性について

(ホール)

- ・開館後にしっかり自主事業を行っていくために、建物の検討と同時に事業運営の方針についても議論することが重要。
- ・オペラやバレエ等の公演を行うことは重要だが、1本あたり1億円以上も経費がかかるため、今から運営や経費面をハード面と同時に考えていかなければ大変なことになる。但しそれが可能であれば、経済波及効果は大きい。北九州芸術劇場での1年間の効果は約33億円。
- ・2,000人のホールを運営し、積極的に事業を行うには、20~30人のスタッフが必要。それでも仕事に耐えられずに何人も辞めていく。経費面では、運営だけで約6億円は必要。開館後2~3年で貸館のみのホールになることは避けなければならない。

(美術)

- ・アンケートなどでは有名な展覧会の開催が多く望まれているが、市民会館の移転を中心に考えた場合、果たしてそれが可能なのか。そうした展覧会がどの程度開催できるのか。長野県レベルでも、人件費を除いた経費が数千万円もかかるような有名な展覧会は十数年に一度しかない。
- ・ホールを中心とした整備の中で、コンセプトに基づいたソフト事業を今から考えていかなければ、多くの美術系の人々の非常に熱い期待には応えられない。
- ・ホールは毎日開館するわけではないが、一方、美術館は毎日開館している。観光客を呼んだり、何かを紹介したりできるのは美術館であるから、お互いの連携が重要となる。
- ・上田では何十年も前から、山本鼎ら郷土の作家を大切に作る動きがある。しかし、アンケート結果では市民の関心が決して高いわけではなく、これをどの程度反映させるのか考えるべき。

4 その他

- ・美術の鑑賞者は音楽や舞台の鑑賞者にもなりやすく、またその逆も同様という研究結果がある。しかし、この点に関してこれまで前向きに取り組む事例が非常に少なく、今回の施設でどのように実現できるか、実にチャレンジャブルな課題と言える。
- ・これまでいくつもの文化施設で既に社会的陳腐化が始まっている現実を見る中で、今までの事例を基にするのではなく、新しい発想で考えなければならない。
- ・行政評価という視点から、例えば、現市民会館の来館者は年間約10万人、これが2倍になるのか、1.1倍で終わってしまうのか、市民が納得できるような説明責任を果たしていくためにも、今から並行してデータ作りを進めていかなければならない。
- ・アンケート結果が示すとおり、市民の皆さんの関心は「財政面への配慮」であり、これに応えなければならない。そのためには、具体的な運営費なども示し「上田市でこの施設であれば大丈夫」ということを明確にする必要がある。

全国公立美術館状況調

※(財)地域創造「地域の公立文化施設実態調査」結果(平成 20 年 3 月)を基に、簡略化のため事務局で再計算、加工しています。

1 施設の規模と構成

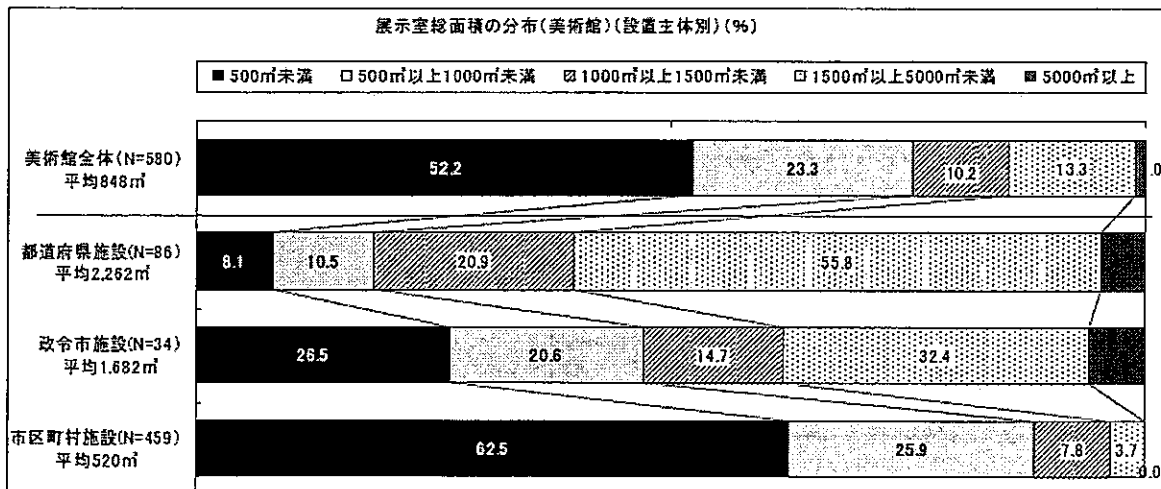
■展示室総面積

展示室の総面積は、美術館全体では平均 848 m²となった(展示室総面積の有効回答数 580 における平均値)。分布をみると、500 m²未満の美術館が 52.2%を占めている。

これを設置主体別にみると、都道府県施設では平均 2,262 m²で、1,500 m²以上 5,000 m²未満の施設が 55.8%を占めており、大規模館が多いことがわかる。

政令市施設では平均 1,682 m²、市区町村施設では平均 520 m²である。

美術館総面積の分布(設置主体別)(%)



2 付帯施設を併設している割合 (割合の多い順、単位：%)

一般ギャラリー	講座室等	図書室等	創作室等	講堂(ホール)	映像ホール	不明
34.7	29.7	23.7	21.6	19.3	16.0	29.8

※ 調査は複数回答可のため、内訳の合計は 100%になりません。

3 施設運営費

(1) 平均収入 (単位：千円)

収入合計	81,677
(事業収入〈使用料・利用料・入場料・自主事業収入〉)	(12,836)
m ² あたり事業収入 (展示室全国平均面積 848 m ²)	15.1

※ 事業以外の収入としては、直営の場合は一般会計繰入金、指定管理の場合は指定管理料や事業委託料等が大半を占め、その他に補助金や助成金、協賛金等があります。

(2)平均支出 (単位: 千円)

支出合計	81,445
(事業費)	(26,381)
(管理運営費)	(36,656)
(人件費)	(23,814)
㎡あたり支出合計 (展示室全国平均面積 848 ㎡)	96.0

※ 調査の有効回答数が項目によって異なるため、内訳の足し上げ結果は合計と合致しません。

平成 18 年度決算金額[直営施設 422 のうち、有効回答 317。各費目の有効回答数は下表参照]

■収入		平均金額(*)	有効回答数	■支出		平均金額(*)	有効回答数
一般財源		64,676 千円	309	事業費(*2)	25,792 千円	263	*平均金額は、有効回答における平均(内訳の足し上げ結果は合計と合致しない)。
特定財源	補助金・助成金	11,681 千円	55	人件費(*3)	20,503 千円	242	
	施設使用料・入場料収入等(*1)	11,570 千円	220	運営管理費(*4)	36,546 千円	307	
	その他	10,484 千円	121	その他	13,413 千円	117	
収入金額(計)		77,470 千円	317	支出金額(計)	77,391 千円	317	

展示室総面積別/平成 18 年度決算金額

支出金額合計	平均金額	有効回答数
美術館全体(N=422)	77,391 千円	317
(展示室総面積別)		
500 ㎡未満(N=216)	22,957 千円	158
500 ㎡以上 1000 ㎡未満(N=85)	60,761 千円	69
1000 ㎡以上 1500 ㎡未満(N=42)	117,288 千円	30
1500 ㎡以上(N=58)	281,648 千円	45
展示室総面積無回答・不明(N=21)		15

平成 18 年度決算金額[指定管理施設 195 のうち、有効回答 146。各費目の有効回答数は下表参照]

■収入		平均金額(*)	有効回答数	■支出		平均金額(*)	有効回答数
設置者からの収入	指定管理料	70,462 千円	138	事業費(*3)	27,716 千円	116	*平均金額は、有効回答における平均(内訳の足し上げ結果は合計と合致しない)。
	事業補助金(*1)	19,216 千円	22	人件費	29,748 千円	135	
	事業委託費(*2)	13,009 千円	28	運営管理費(*4)	36,898 千円	140	
	その他	3,330 千円	17	その他	8,959 千円	83	
自主財源	利用料金収入	12,140 千円	66				
	事業収入	16,943 千円	79				
	設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金	4,279 千円	44				
	その他	5,341 千円	68				
収入金額(計)		90,812 千円	146	支出金額(計)	90,246 千円	146	

展示室総面積別／平成18年度決算金額

支出金額合計／展示室総面積別	平均金額	有効回答数
美術館全体(N=195)	90,246千円	146
500㎡未満(N=87)	31,076千円	69
500㎡以上1000㎡未満(N=50)	86,984千円	37
1000㎡以上1500㎡未満(N=17)	108,196千円	12
1500㎡以上(N=25)	345,959千円	18
展示室総面積無回答・不明(N=16)		10

4 平均スタッフ数(単位:人)

スタッフ合計(※非常勤職員を含む)	9.1
学芸員スタッフ(※推定在籍率70.2%)	3.5

※ 非常勤職員:雇用形態が複雑であり、兼務等もあるため内訳は不明。

※ 推定在籍率:この場合、70.2%の美術館に約3.5人の学芸員が在籍していることとなります。

平均スタッフ数／推定在籍率(美術館全体)

美術館全体(N=617)	スタッフ合計	【職種別】 ²⁶				【雇用形態別】 ²⁷		
		学芸員スタッフ	事業系スタッフ(学芸員以外)	施設管理系スタッフ	総務系スタッフ・他	正規職員	非正規職員	出向・派遣・その他
平均人数 ²⁸	9.1人	3.5人	3.0人	3.0人	3.9人	4.9人	4.0人	4.7人
有効回答数 ²⁹	520	365	295	314	396	441	430	160
推定在籍率 ³⁰		70.2	56.7	60.3	76.2	84.8	82.7	30.8

スタッフ数合計の平均／学芸員スタッフの平均(設置主体別)

	スタッフ合計		学芸員スタッフ		
	有効回答数	平均人数	有効回答数	平均人数	推定在籍率
美術館全体(N=617)	520	9.1人	365	3.5人	70.2%
(設置主体別)					
都道府県施設(N=90)	84	21.2人	73	6.9人	86.9%
政令市施設(N=34)	26	17.4人	22	6.8人	84.6%
市区町村施設(N=492)	410	6.1人	270	2.3人	65.9%

スタッフ数合計の平均／学芸員スタッフの平均(展示室総面積別)

	スタッフ合計		学芸員スタッフ	
	平均人数	有効回答数	平均人数	有効回答数
美術館全体(N=617)	9.1人	520	3.5人	365
(展示室総面積別)				
500㎡未満(N=303)	4.4人	254	1.4人	144
500㎡以上1000㎡未満(N=135)	6.6人	117	2.4人	93
1000㎡以上1500㎡未満(N=59)	13.8人	48	4.9人	42
1500㎡以上(N=83)	27.0人	76	8.5人	72
展示室総面積無回答・不明(N=37)		25		14

5 自主事業

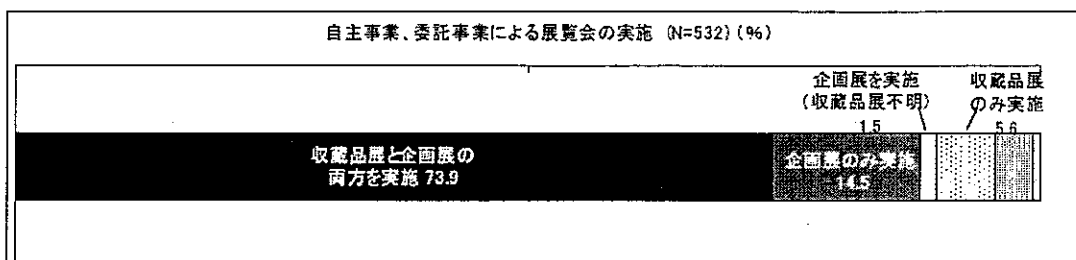
(1) 自主事業の平均実施状況 (単位：%)

自主事業を実施している	86.2
自主事業を実施していない	11.7
無回答、不明	2.1

(2) 自主事業の内容 (単位：%)

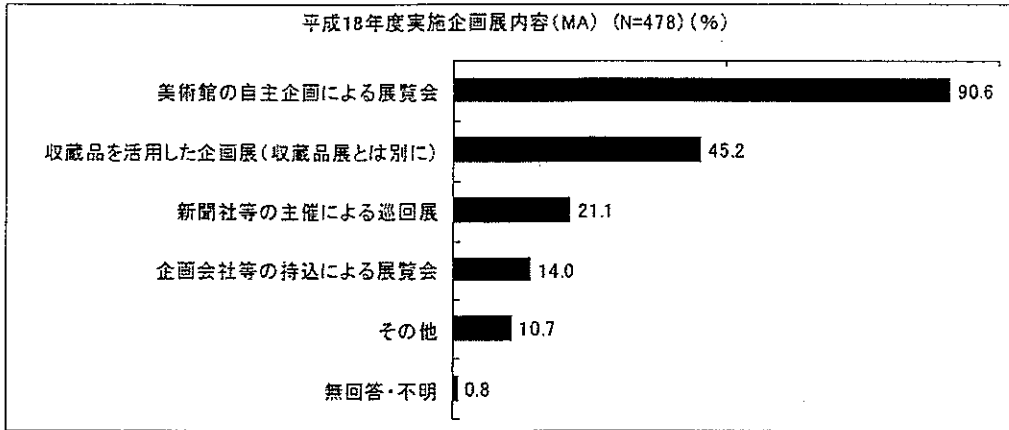
企画展を実施	89.9
収藏品展のみ実施	5.6
いずれも実施していない	3.8
無回答・不明	0.8

自主事業実施施設における、平成 18 年度の自主事業(主催事業)又は設置主体からの委託事業による展覧会の実施(%)



	調査数	企画展を実施	収藏品展と企画展の両方を実施	企画展のみ実施	企画展を実施(収藏品展不明)	収藏品展のみ実施	いずれも実施していない	無回答・不明
自主事業を実施する美術館全体	532	89.9	73.9	14.5	1.5	5.6	3.8	0.8
都道府県施設	88	95.4	88.6	6.8	0.0	2.3	2.3	0.0
政令市施設	32	93.8	68.8	21.9	3.1	0.0	3.1	3.1
市区町村施設	411	88.3	71.0	15.6	1.7	6.8	4.1	0.7

企画展実施施設における、平成18年度実施企画展内容(MA) (%)



	調査数	美術館の自主企画による展覧会	収蔵品を活用した企画展(収蔵品展とは別に)	新聞社等の主催による巡回展	企画会社等の持込による展覧会	その他	無回答・不明
平成18年度企画展を実施した美術館	478	90.6	45.2	21.1	14.0	10.7	0.8
都道府県施設	84	94.0	50.0	50.0	20.2	13.1	1.2
政令市施設	30	93.3	40.0	53.3	23.3	10.0	0.0
市区町村施設	363	89.5	44.4	11.6	11.6	9.9	0.8

平成18年度に実施した展覧会以外の実施事業

展覧会以外実施事業	調査数	ギャラリートーク	講演会	コンサート	演劇公演	映像作品上映会	ワークショップ [*] (美術)	ワークショップ [*] (音楽)
	532	283	270	216	10	86	256	18
都道府県	88	70	70	55	4	31	63	5
政令市	32	24	19	17	0	11	25	3
市区町村	411	189	181	144	6	44	168	10

展覧会以外実施事業	調査数	ワークショップ [*] (演劇)	ワークショップ [*] (ダンス)	アウトリーチ活動	公開制作	その他	いずれも実施なし	無回答・不明
	532	5	17	72	40	110	76	43
都道府県	88	1	6	31	15	24	0	3
政令市	32	1	2	7	4	7	0	1
市区町村	411	3	9	34	21	79	76	39

6 収蔵品を持つ美術館での、収蔵品の収集・保存・展示等の担い手（単位：％）

施設の管理運営者が担う	施設の管理運営者とは別	不明
87.0	9.8	3.2

7 ボランティアの活用状況

(1) ボランティア活動の有無（単位：％）

恒常的に活動	事業ごとに募る	ない	不明
26.7	16.4	55.4	1.5

(2) ボランティア活動の内容（割合の多い順、単位：％）

作品ガイド	50.3
受付、案内、監視	46.1
広報、宣伝、チケット販売	22.4
事業企画への参加	18.8
作品展示サポート	13.9
事業制作への参加	9.1
その他	39.4
不明	5.5

※ 調査は複数回答可のため、内訳の合計は100%になりません。

検討委員会の進め方について(案)

項目	年・月	平成20年8月			9月			10月			11月			12月			平成21年1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
検討委員会		◎		◎	◎		◎		◎		◎			◎	◎				◎		◎	◎
		第1回 経過と基本方針 役割・検討内容 進め方 (整備予定地 市内文化施)		第2回 現状と課題の 把握、検討 基本検討、コ ンセプト検討 市民意向調査		第3回 市文化行政 の把握 事例研究		第4回 県内先進文化 施設視察 (岡谷市、 松本市)		第5回 市民ニーズの 把握、整理 (アンケート結果) 基本コンセプト 検討 専門委員会への 検討課題		第6回 (10/28火) 施設等の 検討について		第7回 中間報告 案の まとめ 中間報告		第8回 施設概要、 内容意見集約 最終報告書の 検討			第9回 検討結果 報告書の まとめ 検討結果報告			
専門委員会									◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎		◎	◎		
								第1回 経過の整理 検討事項の 確認 施設概要、 内容検討1	第2回 施設概要、 内容検討2	第3回 施設概要、 内容検討3	第4回 内容検討 中間報告 素案作成	予備 (12月中)	第5回 施設概要、 内容検討 最終報告 素案作成	第6回 公聴会結果 反映 最終報告書 修正案作成								
市民等	市民アンケート調査	◎	提案	◎	内容決定	◎	実施(配布・回収)	◎	集計													
	利用者懇談会						2回実施 (ホール系・美術系)															
	市民公聴会																					
	パブリックコメント																					
	情報発信																					
		広報(随時) 上田市ホームページに検討経過を掲載																				

